

B-54 合成洗剤と手荒れその他の問題

同女大家政 ○馬杉一重 河合研 河合享三 池田清
京医大衛生 稲垣梅子 大阪教育大 奥澄朝子

目的 主婦の手荒れについては今日まで皮膚科医、洗剤メーカー、消費者団体などによる多くの調査並びに研究があり、合成洗剤の使用による皮膚刺激が主婦の手荒れ乃至は主婦湿疹と何らかの関係があるのではないだろうかという報告が見られる。事実、合成洗剤に触れる機会が多い主婦、調理作業従事者に手荒れが多発しているため今一度この問題を検討する必要を感じ、調査並びに二三の実験を行なった。

方法 本年1月中旬から2月中旬にかけて京都、大阪周辺の主婦1160人と、その時期に一皮膚科医の治療を受けていた主婦湿疹患者51人についてアンケートを配布し洗剤による手荒れの実態調査を行なった。更に河合法による各種洗剤についての皮膚刺激度測定並びに現在問題になっている魚毒性についての実験を行ない、洗剤問題の総合的検討を試みた。

結果 アンケート調査の結果主婦回答者817人中何らかの手荒れの症状を有するものは507人で大半は軽症であったが、まれに109人、皮膚剥離7人……等重症者と少なくなかった。その他、使用方法などについて二三の問題点を認めた。実験の結果、テストした洗剤については何れも規定使用濃度で1回24時間開放性貼布試験(顕微鏡判定法)では合成洗剤、石けん兩者とも皮膚に顕著な刺激を与えないであろうと思われた。